

グループホーム・認知症デイサービス等における利用者の離設防止対策例

各事業所で実践されている取組事例、裁判例などを踏まえまして、利用者の離設防止対策を例示しましたので、御参考としていただければ幸いと存じます。

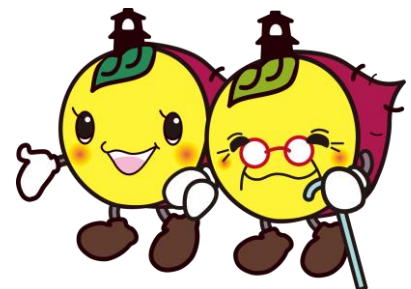
- 1 フロアには、職員が最低 1 人常時見守りを行う。
- 2 運営会議等を活用して、離設のリスクがある利用者について、職員間で情報共有を行う。シフト等の都合で出席できない職員には、会議録、引継ぎノートなどで確実に共有し、特に見守りを重点的に行う。
- 3 帰宅願望がある利用者に対しては、状況により、散歩やドライブなどの外出の機会を設け、気分転換を図る。
- 4 施設内の危険箇所をチェックポイントとしてマニュアル化し、複数の職員で定期的に点検する。
- 5 離設が発生した場合に備えて対応マニュアルを整備し、離設後の事故の発生リスクを低減するため迅速な対応をとれる体制を整える。

【対応マニュアルのフローチャート例】

- ① 事業所の職員による利用者の搜索
- ② 家族への連絡
- ③ 警察への搜索の依頼
- ④ 地域住民、自治会等への情報提供依頼
- ⑤ 警察から市への防災行政無線の依頼
- ⑥ 市へ事故報告・再発防止策

具体的な役割・行動を
決めておくと、
より効果的です！

- 6 日頃から地域活動に協力するなど、事業所と地域住民との良好な関係を築くことで、万一の離設や事故の際には、地域の方々の協力（情報提供等）を得やすくなる。



川越市マスコットキャラクター ときも